



常設企画展

近代名古屋の 日本画界

The modern Japanese art scene in Nagoya

出品予定作家一五十音順

青木栖古	織田杏逸	清水有聲	水谷芳年
浅井正臣	織田杏斎	富田范溪	水野清亭
朝見香城	狩野梅斎	波多野一岳	毛利梅友
石川英鳳	喜多村麦子	服部有恒	森村稲門(宜永)
石河有鄰	熊沢古蓬	林雲鳳	山田秋衛
大岩聚星	小寺雲洞	平岩三陽	横山葩生
大矢米年	近藤白鳳	藤島華僊	渡辺幾春
奥村石亭	佐藤空鳴	松田杏亭	渡辺秋溪(秋谿)

2025年9月27日[土]—12月7日[日]

会期中一部展示替をします。

前期 9月27日[土]—11月3日[月・祝]
後期 11月5日[水]—12月7日[日]

名古屋市美術館 常設展示室2・3

開館時間 9時30分—17時、金曜日は20時まで〔入場は閉館の30分前まで〕
月曜日〔ただし、10月13日、11月3日、11月24日は開館〕
休館日 10月14日[火]、11月4日[火]

会期展示作品は変更の可能性があります。

水野清亭(春應)部分(大正3年1914)紙本着彩(名古屋市美術館蔵(前期展示)

企画趣旨

常設企画展

近代名古屋の日本画界



水野清亭 《春麗》 大正4年(1915) 絹本着彩・屏風装 第8回文展入選 名古屋市美術館(前期展示)

明治末から昭和戦前期にかけての名古屋および周辺地域の日本画の歴史を辿りながら、名古屋市美術館で初紹介の画家を含む中京画壇の作家たちの作品を一堂に紹介します。当時の名古屋は、江戸時代の伝統を引き継いだ画家や、東京・京都で新しい日本画を学んだ画家、画業以外の幅広い活動に取り組んだ画家など、多様な才能に彩られていました。作品だけでなく、中京画壇に関する貴重な資料もあわせて紹介します。知られざる中京画壇の世界をぜひご堪能ください。

展覧会のみどころ

1. 30人を超える中京日本画家を紹介！

本展では、名古屋市美術館初紹介の画家を含む30人以上の中京日本画家の作品を展示します。江戸時代の伝統を引き継いだ画家や、東京・京都で新しい日本画を学んだ画家、郷土史研究のような画業以外の幅広い活動をした画家など、様々な中京日本画家を紹介します。明治時代以降の中京日本画家をここまで網羅的に紹介するのは、名古屋市美術館としては初の試みになります。

展示予定作家(五十音順)

青木栖古、浅井正臣、朝見香城、石川英鳳、石河有鄰、大岩聚星、大矢米年、奥村石亭、織田杏逸、織田杏斎、狩野梅斎、喜多村麦子、熊沢古鐘、小寺雲洞、近藤白鳳、佐藤空鳴、清水有聲、富田范溪、波多野一岳、服部有恒、林雲鳳、平岩三陽、藤島華僊、松田杏亭、水谷芳年、水野清亭、毛利梅友、森村稻門(宜永)、山田秋衛、横山葩生、渡辺幾春、渡辺秋溪(秋谿)

2. 名古屋で開催された2つの博覧会にも注目！

明治時代以降、全国で行われた博覧会は、画家たちの作品発表の場としても重要な役割を果たしました。名古屋でも多くの博覧会が開催され、特に明治43年(1910)の第十回関西府県連合共進会と昭和3年(1928)の御大典奉祝名古屋博覧会は中京美術界発展の大きなきっかけになりました。第十回関西府県連合共進会の付帯事業として開催された名古屋開府三百年記念新古美術展覧会は、日本初の民間総合美術団体・東海美術協会設立のきっかけとなり、御大典奉祝名古屋博覧会のパビリオンの1つとして建設された美術館(鶴舞公園美術館)は、展示施設として重要な役割を果たしました。本展では戦前に名古屋・鶴舞公園で開催された2つの博覧会に関する資料も展示し、当時の中京画壇を取り巻く時代背景についても理解を深めることができます。

3. 全点写真撮影可能！

本展では、全ての作品・資料が撮影可能です。会場で楽しんでいただくだけでなく、作品の写真を後で見返すことや、SNSなどで沢山の人と共有することもできる展覧会になっています。

4. 中京画壇の紹介・解説リーフレットを発行！

解説リーフレット「中京画壇の日本画家たち—名古屋市美術館のコレクションより—」を発行します(A4 フルカラー、24ページ、電子版と同時発行)。名古屋市美術館の郷土日本画コレクションを約20点紹介するだけでなく、中京画壇の解説、画家同士の関係図、年表なども掲載した、中京画壇の全貌がわかる1冊となっています。

展覧会構成

第一章 名古屋開府三百年と中京画壇の成立

明治43年(1910)の第十回関西府県連合共進会(※)の付帯事業である名古屋開府三百年記念新古美術展覧会をキーワードに、当時の中京画壇を掘り下げます。当時の名古屋には日本画団体「同好画会」があり、定期的に展覧会を開催していました。同好画会が第十回関西府県連合共進会にあわせて企画した展覧会は、様々な条件が重なった結果、古美術、洋画、工芸などを含めた総合美術展「名古屋開府三百年記念新古美術展覧会」(以下新古美術展)として開催されることになりました。また、新古美術展を機に同好画会は、洋画、工芸分野を加えた日本初の民間総合美術団体「東海美術協会」へと発展的解消をしました。

本章では、新古美術展に出品したことが判明している画家の作品を中心に紹介します。当時の同好画会の主要画家である奥村石亭、小寺雲洞、石河有鄰、水谷芳年、渡邊秋溪(谿)、といった画家たちに加え、美術研究者としての側面を持つ兼松蘆門、医業の傍ら画業に取り組んだ熊沢古籙など、画業以外の側面を持つ画家たちも取り上げます。

※第十回関西府県連合共進会…愛知県主催の博覧会。農産物や工芸品を中心に北海道・東北・九州を除く全国からの出品物が展示され、会場として鶴舞公園が整備された。

次ページ以降の掲載作品は、特別の表記が無い限り通期展示です。

中京画壇の中心的画家の大作



奥村石亭《月次山水図屏風》
大正時代 名古屋市美術館

12 の画面に12か月の風景を配し、四季の移り変わる様子を描く。作者の奥村石亭は、新古美術展の審査員、東海美術協会の理事を務めた中京画壇の中心人物の1人。



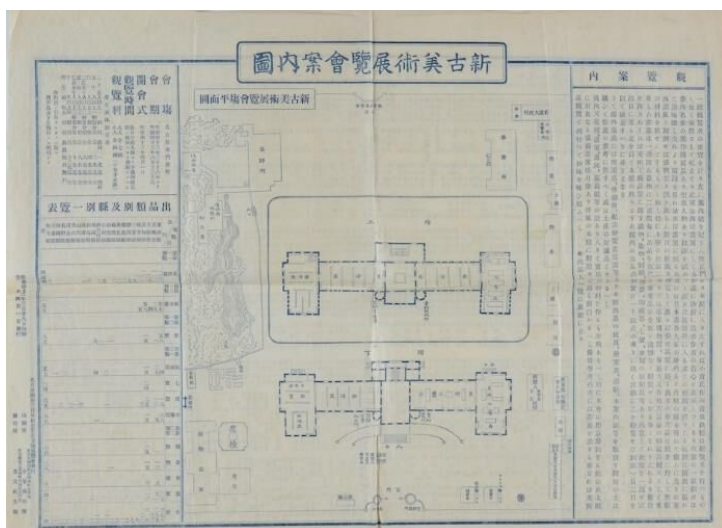
次世代の画家たちを育てた気鋭の画家



水谷芳年《花鳥図屏風》
1920年代 名古屋市美術館

京都の最新の花鳥画表現を取り入れた、芳年の最晩年の制作と考えられている作品。作者の水谷芳年は朝見香城、富田范溪、渡辺幾春など、後に活躍する中京画家たちを指導したことで知られる。

本展の事前調査で発見された「初公開」資料



《新古美術展覧会案内図》
名古屋開府三百年記念新古美術展覧会 発行
明治 43 年(1910) 個人蔵

愛知県商品陳列館で開催された新古美術展覧会の案内図。片面に展覧会の概要と会場地図、片面に出品目録が掲載される。

京都府画学校教員経験を持つ富士の画家

渡辺秋溪(秋谿)
《富岳憧憬之一白糸瀑布図》
明治 44 年(1911)
蟬庵コレクション

渡辺秋溪(秋谿)は、京都の久保田米僊に学んだ後、帰名して同好画会の理事として活動した。特に富士の絵を得意とした。



第二章 東海美術協会と次世代の日本画家たち

明治43年(1910)に発足した東海美術協会は毎年の公募展以外にも古美術の展覧会や講演会などを定期的で開催するなど、中京地域の美術振興に大きな役割を果たしました。

この時期の名古屋には美術学校が無く、中京地域の日本画家志望の若者は明治42年(1909)に開学した京都市立絵画専門学校に主に進学し、日本画を学びました。同校に進学した中京出身者によって大正7年(1918)に結成された愛土社は、大正10年から名古屋で展覧会を開催しました。愛土社の画家たちはほとんどが卒業後に帰郷し、東海美術協会に所属しながら活動をしました。また、大正元年(1912)に姫路から名古屋に移住した朝見香城は、早くから東海美術協会の審査員を務め、大正12年(1923)に、非愛土社系の若手日本画家たちと中京美術院を結成しました。

一方で、中京地域の日本画家志望の若者の中には上京して学ぶ画家も一定数いました。大正7年(1918)に愛知県出身の在東京画家を中心に結成された愛知社は、日本画家だけでなく洋画家や彫刻家、工芸家を加えた総合美術団体であり、定期的に名古屋で展覧会を開催しました。愛知社の日本画同人としては、池上秀畝門下の富田范溪、川合玉堂門下の清水有聲、松岡映丘門下の服部有恒などがいました。また、東京で学んだ画家には、林雲鳳、山田秋衛、平岩三陽のように、後に帰郷して活動した画家も少なくありませんでした。

昭和3年(1928)に開催された御大典奉祝名古屋博覧会では、パビリオンの一つとして中京地域初の美術館が建設され(鶴舞公園美術館)、博覧会終了後も巡回展や公募展の会場として重要な役割を果たしました。翌昭和4年には名古屋市主催の名古屋市民美術展が発足するなど、中京美術界はますますの盛り上がりを見せるようになりました。

姫路出身、中京画壇発展の立役者



朝見香城《海苔採り》
大正14年ごろ(1925c.)
鯉庵コレクション(名古屋市美術館寄託)

海苔の収穫の様子が描かれる。香城の没後すぐに開催された追悼展にも出品されたことが判明している。

半田の美術振興に貢献した画家の「新発見・初公開」作品！



後期展示
大岩聚星《春趣二題》
大正15年(1926)
鯉庵コレクション

右幅に木蓮、左幅に楓を描き、それぞれに小禽を添える。本展の事前調査で、制作年や出品履歴が判明した。

熱田を拠点とした花鳥画の名手
8回連続帝展入選中「唯一」の現存確認作



石川英鳳《紅花白鳥》昭和2年(1927)
鱒庵コレクション(名古屋市美術館寄託)

画面上部を埋め尽くす紅梅と、白梅や白鳥が鮮やかなコントラストを生み出す。英鳳は大正13年(1924)の第5回帝展から連続8回入選しているが、その中で唯一が確認されている作品。

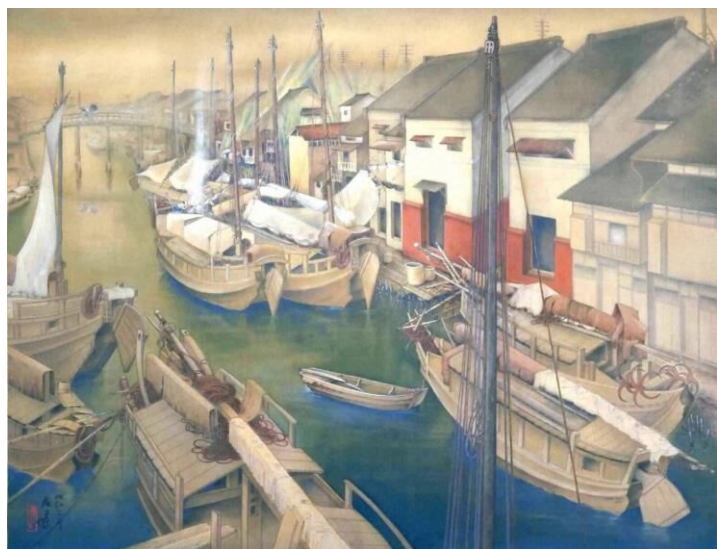
「新事実判明！」名古屋市美術館
コレクションの代表的美人画



渡辺幾春《蓄音機》昭和8年(1933)
名古屋市美術館

着物を着た女性が蓄音機の前に座り、音楽を聴く様子が描かれる。本展の事前調査で、昭和9年(1934)に鶴舞公園美術館で展示されたことが判明した。

名古屋・堀川沿いを描いた「博覧会受賞作」



喜多村麦子《暮れ行く堀川》昭和3年(1928)
名古屋市美術館

名古屋の堀川沿いの風景を描き出す。御大典奉祝名古屋博覧会の美術展で銀牌を受賞した作品。麦子は京都で土田麦僊、福田平八郎に師事し、戦後は地元の木曽川で川合玉堂の顕彰活動も行った。

東京で活動した画家の
「新収蔵・初公開」作品



富田范溪《麦畑》
昭和8年ごろ
(1933c.)
名古屋市美術館

令和6年度の新収蔵作品で初公開作品。范溪は東京美術学校に進学し、後に旧派の大家である池上秀畝に師事した。

開催要項

- (1) 展覧会名 常設企画展 近代名古屋の日本画界
Spesial Thematic Exhibition:
The modern Japanese art scene in Nagoya
- (2) 会期 2025 年 9 月 27 日(土)～12 月 7 日(日) 会期 63 日間
- (3) 休館日 毎週月曜日(ただし、10 月 13 日、11 月 3 日、11 月 24 日開館)、
10 月 14 日、11 月 4 日
- (4) 開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時、金曜日は午後 8 時まで
(いずれも入場は閉館の 30 分前まで)
- (5) 会場 名古屋市美術館 常設展示室 2・3
- (6) 観覧料 一般 300 円 高大生 200 円 名古屋市内在住 65 歳以上 100 円
中学生以下無料
(前売・団体は-50 円、名古屋市内在住 65 歳以上は-20 円)
- (10) 公式サイト <https://art-museum.city.nagoya.jp/exhibitions/post/chukyogadan/>
- (11) 関連催事
コレクション解析学「東海美術協会の日本画家たち」
日時:11 月 29 日(土)14:00～(約 90 分)
講師:近藤将人(名古屋市美術館学芸員)
会場:名古屋市美術館2階講堂
定員:180 名(当日先着順、定員になり次第締切)

「常設企画展 近代名古屋の日本画界」広報用画像の提供について

「常設企画展 近代名古屋の日本画界」をご紹介いただく際の広報用画像を提供いたします。
下記注意事項をご確認の上、専用フォームにより申請してください。

広報用画像提供依頼専用フォームはこちら
→<https://logoform.jp/form/mX9C/1241988>



●展覧会をご紹介いただく場合

・本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で校正を下記問い合わせ先までメールにてお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

・掲載・放送後は、掲載紙・誌、または同録データもしくは DVD 等を 1 部お送りくださいますようお願いいたします。WEB サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

●画像掲載について

- ・画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載はお断りします。また本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はご連絡ください。
- ・ご使用の際は、指定のキャプション表記をお願いします。画材の表記についてはスペースがない場合は省略可とします。
- ・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・以上の点にご留意いただけない場合、所有者などとの間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。
- ・画像は原則データでの送付とさせていただきます。必ずメールアドレスをご記載ください。

●展覧会の取材・撮影について

- ・本展の取材・撮影をご希望の場合は事前にご連絡ください。ご連絡がない場合、お断りすることがあります。

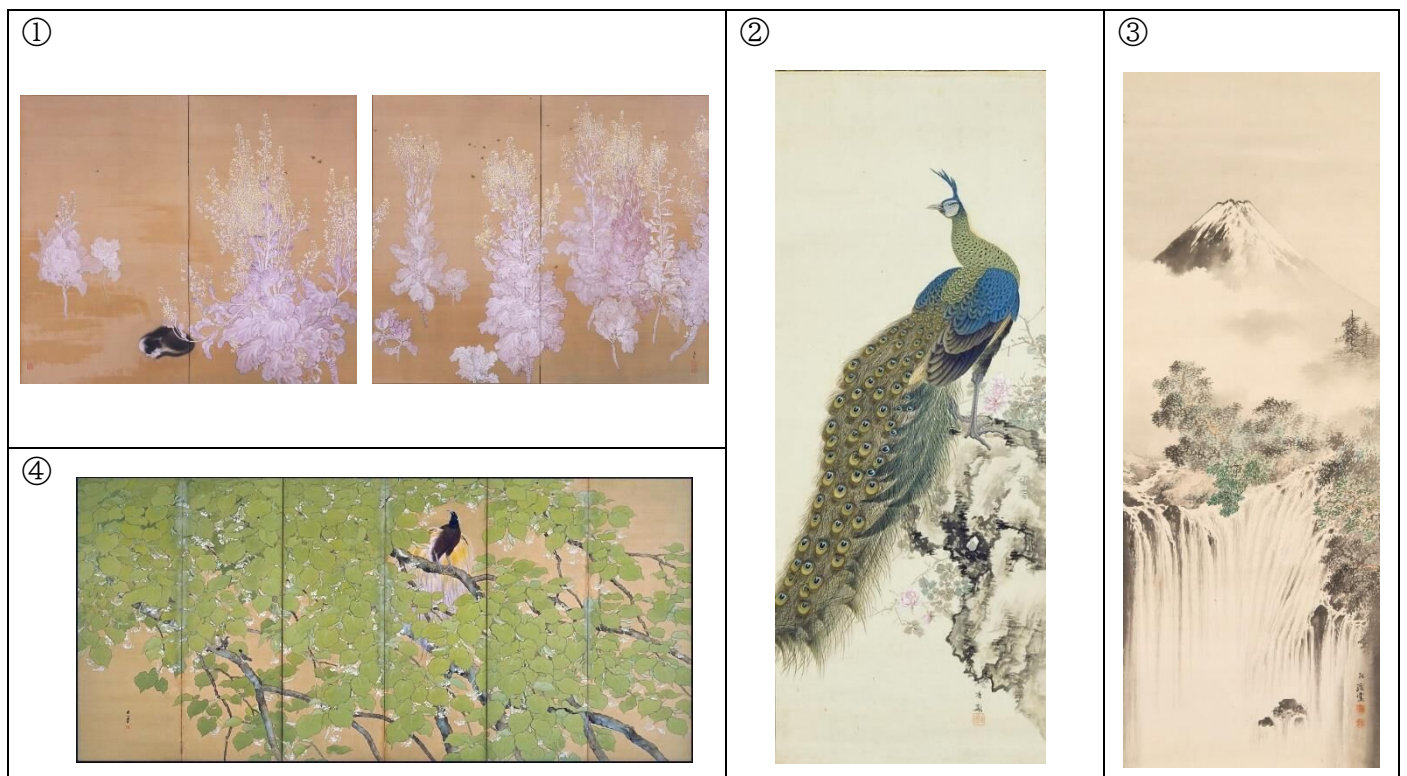
【広報に関するお問い合わせ】

名古屋市美術館(担当・長谷部)

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 TEL:052-212-0001 FAX:052-212-0005

メール:ncam_gakugei@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

「常設企画展 近代名古屋の日本画界」広報用画像一覧



⑤



⑥



⑦



⑧



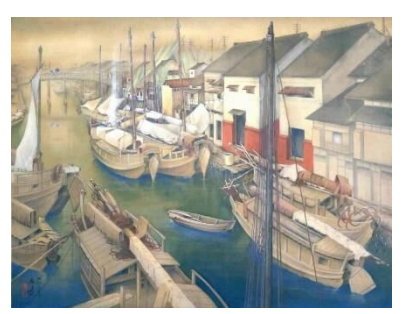
⑨



⑩



⑪



⑫



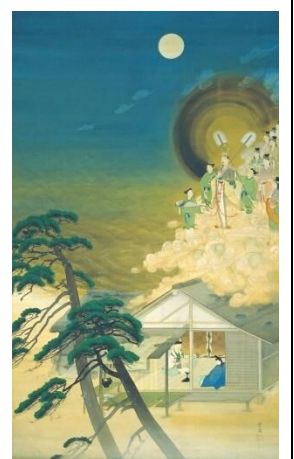
⑬



⑭



⑮



⑯





「常設企画展 近代名古屋の日本画界」広報用画像

作品キャプション一覧

・画像掲載時には必ず作品キャプションを併記ください。

例：水野清亨《春麗》 大正 4 年(1915) 絹本着彩 名古屋市美術館蔵(前期展示)

①	水野清亨《春麗》 大正 4 年(1915) 絹本着彩 名古屋市美術館(前期展示)
②	石河有鄰《巖上孔雀図》 大正 12 年(1923) 絹本着彩 名古屋市美術館
③	渡辺秋溪(秋谿)《富岳憧憬之一白糸瀑布図》 明治 44 年(1911) 絹本墨画淡彩 鱒庵コレクション
④	水谷芳年《花鳥図屏風》 大正(1920年代) 絹本着彩 名古屋市美術館
⑤	奥村石亭《月次山水図屏風》 大正(1910年代) 紙本墨画淡彩 名古屋市美術館
⑥	熊沢古篷《勁翮排霜図(鷹野猛威)》 昭和 2 年(1927) 絹本着彩 名古屋市美術館
⑦	佐藤空鳴《晩春(分譲地風景)》 昭和 4 年(1929) 絹本着彩 名古屋市美術館
⑧	朝見香城《海苔採り》 大正 14 年頃(1925c.) 紙本着彩 鱒庵コレクション(名古屋市美術館寄託)
⑨	石川英鳳《紅花白鳥》 昭和 2 年(1927) 絹本着彩 鱒庵コレクション(名古屋市美術館寄託)
⑩	横山葩生《晴れたる日》 昭和 11 年(1936) 紙本着彩 名古屋市美術館
⑪	喜多村麦子《暮れ行く堀川》 昭和 3 年(1928) 絹本着彩 名古屋市美術館
⑫	渡辺幾春《蓄音機》 昭和 8 年(1933) 絹本着彩 名古屋市美術館
⑬	富田范溪《麦畑》 昭和 8 年頃(1933c.) 絹本着彩 名古屋市美術館
⑭	清水有聲《椿咲く島》 大正 9 年(1920) 絹本着彩 名古屋市美術館(後期展示)
⑮	林雲鳳《玄上》 昭和 4 年(1929) 絹本着彩 名古屋市美術館(前期展示)
⑯	服部有恒《業平観梅》 昭和 5 年頃(1930c.) 紙本着彩 名古屋市美術館(後期展示)
⑰	平岩三陽《山は粧ふ》 昭和 12 年(1937) 紙本着彩 名古屋市美術館(前期展示)
⑱	田部井竹香 著 野崎華年 装丁『古今中京画談』 明治 44 年(1911) 個人蔵
⑲	東海美術協会 編《東海秀美帖》表紙 昭和 4 年(1929) 名古屋市美術館
⑳	青木栖古《蟹》(《東海秀美帖》より) 紙本着彩 昭和 4 年(1929) 名古屋市美術館

展覧会紹介文例

【50 文字程度】

明治末から昭和戦前期にかけての中京画壇の作家たちの作品を紹介し、その世界を堪能できる展覧会。

【100 文字程度】

明治末から昭和戦前期にかけての名古屋および周辺地域の日本画の歴史を辿りながら、名古屋市美術館で初紹介の画家を含む中京画壇の作家たちの作品を一堂に紹介します。知られざる中京画壇の世界をぜひご堪能ください。

【200 文字程度】

明治末から昭和戦前期にかけての名古屋および周辺地域の日本画の歴史を辿りながら、名古屋市美術館で初紹介の画家を含む中京画壇の作家たちの作品を一堂に紹介します。当時の名古屋は、江戸時代の伝統を引き継いだ画家や、東京・京都で新しい日本画を学んだ画家、画業以外の幅広い活動に取り組んだ画家など、多様な才能に彩られていました。作品だけでなく、中京画壇に関する貴重な資料もあわせて紹介します。知られざる中京画壇の世界をぜひご堪能ください。